知って得する！話題のトレンドワード（第14回）

ポイント解説！スッキリわかる「5S活動」

2024.05.29

いま話題のトレンドワードをご紹介する本企画。第14回のテーマはスッキリわかる「5S活動」です。言葉の意味、そしてその背景や関連する出来事を解説していきます。みなさまのご理解の一助となれば幸いです。

工場や病院など、現場でスローガンとしてよく掲げられる「3S」。「整理（Seiri）」「整頓（Seiton）」「清掃（Seisou）」のローマ字からそれぞれの頭文字である「S」を取った言葉です。これらを徹底することで、職場の環境改善などを図る活動を「3S活動」と呼びます。「3S」の他、整理・整頓のみの「2S」や、3Sに「清潔」（3Sの状態をキープすること）を加えた「4S」、そして4Sに「しつけ」（4Sのルールを習慣化すること）を加えた「5S」があります。近年盛んなのは、「継続性」と「人」を重視した「5S」です。経済産業省や厚生労働省なども、「5S」を推奨しています。

5S（3S/4S）活動を徹底すれば、業務の効率化、安全性の向上、従業員のモチベーションアップなどにつながる、といわれています。

関連する出来事などの背景

筆者は以前、企業の企画室に勤務していましたが、工場には「3S」のポスターやスローガンが貼られていました。そんなこともあって「3Sって何か知ってる？」といわれたら、誰でも当たり前に「整理・整頓・清掃だよ」と即答できるほど、スローガンとして徹底できていたと自負しています。しかし、改めて考えると、社員一人ひとりがその本当の意味を理解できていたのだろうかと、疑問が湧いてきます。

もちろん、整理整頓されて、キレイに掃除され、清潔さが保たれた環境は誰しも気持ちがいいのは確か。だからといって、目的なく実行しては効率化には結びつきづらいでしょう。正しく理解するため、それぞれの定義と実行のポイントを見ていきましょう。

5S活動については、経済産業省・中小企業庁「ミラサポplus」にある「5Sは、すべての業種の経営改善・顧客満足につながります！」からリンクする「マンガでわかる5S活動」がわかりやすいでしょう。5S活動の具体的な内容や実践方法は、日本能率協会コンサルティング（監修：経済産業省）「5Sによる作業のムダ・ミス軽減」がよい手引きになります。「5S」の発祥は諸説ありますが、一般的には「トヨタ自動車」が昭和30年代のトヨタ式生産方式「ジャストインタイム」を取り入れる際に始めたといわれています。その考え方は、以前「ポイント解説！スッキリわかる“ムリ・ムラ・ムダ”」に書きましたので、参考にしていただければ幸いです。

… 続きを読む